

世界遺産紹介し合う

万田小 駿馬小 子どもガイド 初の交流

荒尾・大牟田



万田坑で駿馬小児童をガイドする万田小児童(右側)

世界文化遺産に登録されている旧三池炭鉱関連施設で、共に子どもガイドとして活動している荒尾市万田小学校(北岡普久校長)と大牟田市駿馬小学校(秋島弥穂校長)の交流会が9日に始まった。初回は万田坑であり、万田小の児童が駿馬小の児童に見どころを解説。駿馬小の児童による宮原坑のガイドも予定されており、お互いが誇る「世界の宝」を紹介し合う。

「明治日本の産業革命遺産」の構成資産である荒尾市の万田坑と大牟田市の宮原坑は2015年、世界遺産に登録。万田小は万田坑、駿馬小は宮原坑で、6年生が代々、来場者を案内するボランティアガイドの活動を行っている。

両校の交流は初の試み。駿馬小6年生46人と万田小6年生72人が学級別に行い、9、13日に万田坑、15、16日には宮原坑で実施。駿馬小児童は6班に分かれ、案内役の万田小児童と一緒に見学。各拠点で待機しているガイド役の万田小児童から説明を受けた。

万田小児童はクイズや当時の様子を再現する寸劇も交え、巻揚機室、第二立て

坑坑口、山ノ神祭祀施設など各施設を紹介。駿馬小児童はクイズに頭をひねりながら、熱心にガイドに耳を傾け、メモを取っていた。

「ガイドが、とても分かりやすかったです。私たちも世界遺産を大事にしていきたいと思いました。今度

は私たちが宮原坑を紹介するので、分かりやすいように一つ一つ工夫してガイドしたいです」と駿馬小の山内星恋さん(11)。

坑口でガイドした万田小の大本蒼さん(12)は「駿馬小の皆さんは勉強してよく知っている人も多く

驚きましたが、自分たちのガイドをしっかりと聞いてくれてうれしかったです。交流会では宮原坑と万田坑との違いやガイドの仕方の違いなどを学び、自分たちの活動に生かしていきたいです」と話していた。

(河野 美緒)